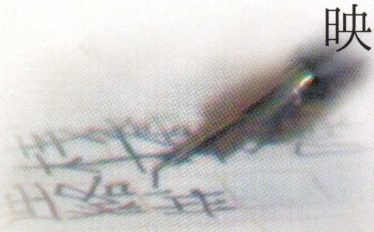
書くことの重さ
作家佐藤泰志
「海炭市叙景」「きみの鳥はうたえる」
「そこのみにて光輝く」を
生み出した 作家の生涯
監督・プロデュース：稲塚秀孝 語り：仲代達矢
出演：佐藤泰志／加藤登紀子／村上新悟（佐藤泰志）
撮影：進藤清史 音声：内田丈也 照明：男澤克幸 美術：庄司 薫 音効：塚田 大 助監督：岩田大生／池田春花 編集：油谷岩夫 製作：タキオンジャパン
助成：文化芸術振興費補助金 配給：太秦（北海道以外） 2013／日本／カラー／HD／91分 ©2013タキオンジャパン

村上春樹、中上健次らと並び評されながら、不遇に終わった小説家・佐藤泰志。その知られざる“生きざま”をいま――

2010年に劇場公開され、キネマ旬報ベストテン第9位に選出されるなど大きな話題になった映画『海炭市叙景』(加瀬亮主演・熊切和嘉監督)。原作者・佐藤泰志の故郷である函館をモデルにした“海炭市”を舞台に、その場所で生きる人々の姿をありのままに描き、複数の挿話が交錯する物語は多くの観客を魅了した。その原作者であり、“幻の小説家”と言われていた佐藤泰志も、映画『海炭市叙景』の公開により過去の著作の復刊が相次ぎ、大きな注目を浴びた。
村上春樹、中上健次らと並び評されながら、文学賞にめぐまれず、90年に自らの命を絶った不遇の小説家・佐藤泰志。その知られざる、小説を書くことに捧げた生きざまを再現ドラマにより再構成し、世に問うドキュメンタリー映画『書くことの重さ』。
ひとりの小説家の人生から、我々は何を思い、何を感じるのだろうか。

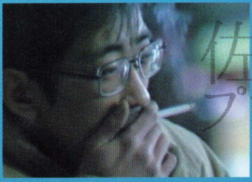
青函連絡船、函館山、赤レンガ倉庫

映画『海炭市叙景』の原風景、函館を舞台に描く



書くこと、生きることの大切さ

監督は、広島と長崎の両市で被爆し、二重被爆者となった山口彊さんを追ったドキュメンタリー映画『二重被爆』『二重被爆～語り部　山口彊の遺言』の稲塚秀孝。北海道苫小牧市出身で自らも小説家を志していた稲塚監督は、中央の文壇で活躍していた佐藤泰志にまばゆい憧れを抱き、若くして命を絶ったその人生に興味をもち、ドキュメンタリー映画の製作を思い立つ。
この映画の趣旨に賛同するように集まったスタッフとキャスト。語りに日本を代表する名優、仲代達矢。ドラマ部分で佐藤泰志の母親役を演じる、歌手、加藤登紀子。また、仲代達矢が主宰する無名塾から結集した実力派俳優たちも、佐藤泰志の人生の再現に力を注いでいる。



佐藤泰志プロフィール

佐藤泰志 (1949～1990)

作家。　北海道函館市出身、函館西高校在学中に「有島青少年文芸賞」(北海道新聞社主催)を2年に渡って、優秀賞受賞。2浪の後上京し、国学院大学文学部哲学科在学中に、同人誌「黙示」「立待」さらに「北方文芸」に執筆。卒業後、同人誌「贋エスキモー」を始め、「北方文芸」に掲載された「もうひとつの朝」が「作家賞」受賞。文学界、新潮新人賞候補の後、1979年、「草の響き」(文藝7月号)で文芸誌デビュー。「きみの鳥はうたえる」(1981年文藝9月号)で第86回芥川賞候補となる。以降合わせて5回芥川賞候補となるが、いずれも落選。1989年、「そこのみにて光輝く」で第2回三島由紀夫賞候補となるが落選。その後「海炭市叙景」を「すばる」に断続的に掲載。36篇を構想するも半分の18篇で終了(1990年「すばる」4月号)となる。1990年10月10日に亡くなる。享年41。2010年に函館の有志たちの発案による「海炭市叙景」の映画化が実現した。

プロデュース・監督:稲塚秀孝　語り:仲代達矢
出演:佐藤泰志／加藤登紀子／村上新悟(佐藤泰志)
撮影:進藤清史　音声:内田丈也　照明:男澤克幸　美術:庄司薫　音効:塚田大
助監督:岩田大生／池田春花　協力:無名塾　助成:文化芸術振興費補助金
製作:タキオンジャパン　配給:太秦　©タキオンジャパン　2013／日本／カラー／HD／91分

www.u-picc.com/kaku-omosa

10月5日(土)～ モーニングショー

特別鑑賞券 ¥1300 絶賛発売中!!　<連日10:00～>

劇場窓口・プレイガイドにて(当日:一般¥1800、学生¥1500のところ)
劇場窓口で特別鑑賞券をお買い求めの方に「特製ポストカード」をプレゼント!!

新宿駅東南口階段下ル 甲州街道沿ドコモショップ左入ル
新宿 K's cinema
03 (3352) 2471 www.ks-cinema.com
各回入替・整理券制